慧号
日記

起筆
十四年一月一日

尽筆
六年四月廿日

服部文庫
イ 17
2250

明治十四年十一月一日 旧十三年十二月二日 乙未 土曜

朝六時ヨリ起ぬ直ち未た明らぬ七時ニ成る
明らぬ先つ天神地祇を拜み奉りぬ朝飯
終て師岡武雄又今日生徒を率て
今高神原ヘ詣ぬ松野寸内中尾の三氏
来る九時ニ橋村氏ふれく長ヒ父兄
と日枝社ヘ詣て芝大神宮ヘ参りぬ
佐川友深氏を同乗木挽町三丁目
を尋ぬ家焼ひぬ又西京山中
氏を訪ふ不在神田なる焼野を見る
あれなることと但なりして氣いとし
うていと安閑なる事世橋を渡る汐
十四年一月

117. 2397

417 特
2250

五午ニ来りぬ上野の舞楽すて居殿を
多くつめ一時三千人ばかり酒肴拉四位廣
法郎小春りぬ筧朴郎氏あり父
子別れまつりて三人酒草よりく
歓喜の境ゆまきやうなること限り
なし横江氏より別る帰る三宮氏
子別る小手沢氏を訪れと知れ
夕暮石河氏あるをひぬ居を局
生徒をとる又石居五四郎帰
りぬ浦郎氏来りぬ

二日 十月廿日 丙申 日曜日

父天宿直の事うけたまわる山路氏
松四谷浜賀社小まうて久保氏を
尋ぬ又尾花所の兄弟をとひ赤坂な
る泉田生田氏なとをとひ弥川社に詣
てうつぬ高生徒芝森山岸
田中氏福山なとも来りぬ兄弟も来ら
ぬ弟子なりて番ぐさなとも拾ふ
松本牧松野寸田豊島野根本
石崎中川なとの人々来る土耳古
拾ひぬ北の方列列し

三日 十月廿日 丁酉 月曜日
八五十八度

父天今宿直帰りぬ又出張
野沢氏彦義久保義氏とくるこの日

泉州堺の浦さ地内民ニ文民の代
ともなく浦氏物語諸義を初め
孫子相模氏に文書多数
四月 十二月 戊戌 大暑
公義諸を旅ともなく出給ふ十四寛
朴部相模守建方相模村氏手ニ到る
二月 十五日 大美氏を上ふ屋さ
伊東左衛門氏ニ書類飯ニ
川月ニ書札を求めて屋敷
浦氏諸義伝ふあし昨夜の火本
今医ニ部なるし今朝も火あり
清防組出初のなり去年今日火

有り

五日 十二月六日 己亥 水曜日 晴
昨夜新宮の初発見日ニ読書新宮
紙幡をひろひたり

六 十二月七日 庚子 木曜日 雨 半晴
この東禅寺詰つ

七 十二月八日 辛丑 金曜日 晴
公義相模守堅大姉の三十年祭を行ふ
為光院の百年祭に合せ行ふ浦氏
来り山横浜氏来る
八日 十二月九日 壬寅 土曜日 晴
中義隆出発ニ来り昨朝兄弟と青柳

お話つ[illegible]毎君話て来

九日 十月十日 癸卯日曇 晴

[illegible]君来弾ずる事[illegible]話て来

十日 十月十日 甲辰月曇 晴

一昨日燈籠を拵て拵[illegible]けき茶花[illegible]

を借て帰りぬ[illegible]描[illegible]来りぬ[illegible]

夜る

十一日 十月十一日 大暦乙巳 晴

今日開業式あり

十二日 十月十二日 丙午 水曜 晴

切り開業式あり

十三日 十月十四日 丁未 木曜 晴

この日図書館[illegible]きぬ

十四日 十月十五日 戊申 金曜 晴

松本俊健氏来る

十五日 十月十六日 己酉 晴

十六日 十月十七日 庚戌 日曜 晴 風

十七日 十月十八日 辛亥 晴

十八日 十月十九日 壬子

十九日 十月廿日 癸丑

廿日

廿一日

廿二日

×

二月

廿四日 土 二月廿四 戊午
廿五日
廿六日
廿七日
廿八日 癸亥 大
廿九日 甲子 ×
二月廿日 酉寅
二月一日 丙寅
二日
三日
四日

五日
六日 辛未 ×
七日
八日
九日
十日
十一日
十二日
十三日 正月日 戊寅 ×
十四日
十五日
十六日

十月 月日 壬午
十九 癸
十九 甲
廿日 月日 乙酉 ×
廿一 丙
廿二 丁
廿三 戊
廿四 己
廿五 庚
廿六 辛
廿七 壬辰 ×
廿八 癸巳

皆東京府師範学校志願者を出しぬ
三月十日まで（きさらぎ）
三月 一日 月日 甲午
二日 乙未
三日 丙申
四日 丁酉
五日 戊戌
皆彼の試験あり七十人ばかり来りぬ
六日 己亥 ×
七日 庚子
皆又彼の試験の餘をもふ畢て書籍
ふまうづ

八月　辛丑
九月　壬寅
十月　癸卯
皆及第せし者十名なりきよし
十一月　甲辰
十二月　乙未　凶
十三月　丙申　凶
十四月
十五月
十六月　己酉
皆試驗生となりて後ほどなき早くうせぬ

十七月　庚戌
十八月　辛亥
（今和歌山役所なり）
十九月　壬
廿日　癸丑　凶
廿一日　甲
廿二日
廿三日
廿四日
廿五日
廿六日
廿七日　庚申　凶
皆入学試驗生となりて校舎の移るとなりぬ

廿八日
廿九日
卅日
四月一日
朋神田藤藏ノ尖ある甚る神田くれ
洋紙角理梯梯をもむ
二日
三日
甲 ⊗ 烈風
四日 ×
昨寄宿舎ヨリ帰ル

五日 月日 曇し
春季皇霊祭ニて休暇なれ御陵場より
ゆき又ハ新宿まて燈臭を求めぬ
六日 晴
七日
昨夜雨ヤみわく
八日
九日
十日 ×
昨夜雨ヤまゝ降年社ヨ詣ツ
十一日 月日 風ア 曇ナ初
十二日 甲

十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
廿日
廿一日
廿二日
廿三日

×
甲
晴
嵐
晴
×
雨

五月

廿四日
廿五日
廿六日
廿七日
廿八日
廿九日
卅日
五月一日
二日
三日
四日

試験あり
試験あり
試験あり

甲
×
半晴

五日
六
七
八　×
九
十
十一
十二
十三
十四
十五　×
十六
十七
十八　甲
十九
廿
廿一
廿二
廿三
廿四
廿五
廿六
廿七
廿八　甲
廿九
廿日
廿一
廿二
廿三　×
廿四
廿五
廿六
廿七
廿八
廿九
卅
卅一
卅二
卅三
卅四
卅五
卅六
卅七
卅八
卅九
卅日

出ル条件戦試補の辞令書下ル　足君受取ラル

廿五　甲
廿六　乙
廿七　丙
廿八　丁
廿九　戊

物所お国屋より出来ル

卅三　丁
卅四　戊

事務局より出来ル

廿五日 庚辰
廿六日 辛巳
廿七日 壬午
廿八日 癸未 ×
廿九日 甲申
卅日
卅一日 乙酉
卅二日 丙戌
卅三日 丁亥
卅四日 戊子 ×
卅五日 己丑 ×

卅六日 庚寅
卅七日 辛卯
卅八日 壬辰 甲
卅九日 癸巳
四十日 甲午
四十一日 乙未
四十二日 丙申 ×
四十三日 丁酉
四十四日 戊戌
四十五日 己亥
四十六日 庚子
四十七日 辛丑

十月 癸辰
十九 甲申 ×
廿 乙酉
廿一 丙戌
廿二 丁亥
廿三 戊子
廿四 己丑
廿五 庚寅
廿六 辛卯 ×
廿七 壬辰
廿八 癸巳
廿九 甲午

世 乙辰
卅 丙申
卅一 丁酉
卅二 戊戌 ×
卅三 己亥
卅四 庚子
卅五 辛丑
卅六 壬寅
卅七 癸卯
卅八 甲辰
卅九 乙巳 ×
十月 丙午

十二日 六月十日 戊申 雨 丁未

この日午前六時ごろ出立つ八時頃新宿より馬車にて府中まで行きて昼飯を食べぬそれより八王子まで行又小仏峠の麓までつきて乗り七時頃吉野駅大房店十時ごろへ宿りぬ

十四日 六月十日 己酉 朝曇り後晴

朝五時吉野を出立猿橋より車にて黒岩たきまで行き笹子峠を越駒飼宿なる渡辺半兵衛氏に着きぬ

十五日 六月二十日 庚戌 晴

午後二時勝沼より馬車にて蒲崎に至り塩屋にて方に宿りぬ

十六日 六月廿日 辛亥 晴

午前五時馬車にて金沢に至り馬を延きて諏訪に着きぬそれより地蔵ちに到り帰りて宮坂作三氏に到る

十七日 六月廿一日 壬子 ×

朝より地蔵ちに到り帰りて吉田氏又島前松田左右氏に到り帰りて宮坂別荘に到りぬ

十八日 六月廿二日 癸丑 雨

午後二時半地蔵ちに到りあるじに

松田吉四の二女事うれしなる報に
来りぬ

十九日 六月九日 甲寅 半晴

朝藍屋小四郎に出して帰る手長社に
詣つ

廿日 六月十日 乙卯 土用 晴

朝うゝ島屋みゝく先是ケ野なる
伯母夫をとゝ

廿一日 六月十一日 丙辰 晴

朝上社小詣つ帰さ吉田氏まいく

廿二日 六月十二日 丁巳 晴

朝うゝ下社小詣て和田峠を越えて

和田村小到り翌川府工内方之状を
ばりき羽田国吉氏之到り祖母夫
みまひまつて甚平やとりぬ

廿三日 六月十三日 戊午 大暑 快晴

廿四日 六月十四日 己未 ✕ 晴

今朝和田村を出立て十時宮坂氏
へ帰る父夫小苟猪を出みつゝ岩
宮司殿小帰れるゝ笠

廿五日 六月十五日 庚申 曇雨

廿六日 六月十六日 朝曇後晴

午時舟を返て諏訪の湖小あそひ夕
つゝ帰りぬ

廿七日 壬戌 半雨

今島司松田氏より
方中平伊三郎氏より

廿八日 癸亥 晴

今地蔵堂より所々まもりぬ夕つ方
千野岩女氏来らる

廿九日 甲子 晴

卅日 乙丑 半晴

今朝宮坂氏を出立して矢崎まもり
蘆の湯よりつきぬ

卅一日 丙寅 又半晴

八月 丁卯 雨晴

今八ヶ嶽を越て八郡より出て馬流
なるをひけやより宿りぬ

二日 戊辰 雨晴

千曲松平村鷹野氏より別り宿りぬ

三日 己巳 雨晴

今沼沢に湯よりわけ海口井手義
平氏より宿りぬ

四日 庚午 雨晴

今鷹野氏より宿りぬ

五日 辛未 雨晴

今朝鷹野氏を出て野辺村加爰
墓所をやどりぬ

六月十三日　壬申　晴夜雨

今車ニて岩井田駅ヲ過り又上り車ニて軽井沢ヨリ馬ニて碓氷峠を越え板本駅　方ヨリ夕飯を喰ベ午後五時馬車ニ乗りて終夜都ヨ向ひ行く

六月十四日　癸酉　×晴

今十時江東京眼鏡橋ヨつきぬ

今月十四日　甲戌

九月十五日　乙亥

十月十六日　丙子

十一日　丁丑

戊寅

己卯

六月十七日　庚辰　×

辛巳

壬午

癸未

甲申

乙酉

丙戌

丁亥

六月十八日　丁亥　×

戊子

己丑

七月廿八日 庚寅

廿九日

三十日

卅日

卅一日

卅二日

卅三日 八月日 戊戌

卅四日

卅五日 八月日 甲午 ×

卅六日

卅七日

卅八日

卅九日 己巳

四十日 庚辰

四十一日 辛巳 ×

四十二日 壬午

四十三日 癸未

四十四日 甲申

四十五日

四十六日

四十七日

四十八日

四十九日 ×

五十日

五十一日

五十二日

五十三日

五十四日 子

甲 ×

甲子 ×

十月一日 戊辰

二日 己巳 ×

三日

四日

五日

六日 甲戌

七日

八日 丙子 ×

十日　戊寅
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日　癸未 ×
十六日
十七日　甲申
十八日
十九日
廿日
廿一日
廿二日

廿三日　庚寅 ×
廿四日
廿五日
廿六日
廿七日　甲午
廿八日
廿九日
卅日　丁酉 ×
卅一日　戊戌
十一月一日　己亥
二日　庚子
三日　辛丑

四日　壬寅
五日　癸卯
六日　甲辰　×
七日
八日
九日
十日
十一日　辛亥　×
十二日
十三日

十四日　乙卯
十五日　盜まれたる品下げ渡すべき由
裁判所より申来る
十六日　丙辰
十七日　丁巳
第一期卒業証書を授ける
十八日　戊午　×
十九日　己未
一才　米場米穀　七一
外国米場米穀　七二
外国米場米穀　七三
廿日　庚申
廿一才　米場米穀

十三日 北五番場年寄衆 甲子 [illegible]

廿六日 乙丑 ×

廿七日 丙寅

廣瀬より書状来ル

廿九日 丁卯

[illegible]

[illegible]

十一月一日 己巳

二日 庚午

三日 辛未 ×

四日 壬申

五日 癸酉

馬場より状来ル

六日 甲戌

七日

八日

九日 丁丑 ×

十日

十一日

十二日

十三日

十四日 壬午

阿部氏より状来ル

十五日 癸未

十六日　甲申　〆
十七日　乙酉
十八日　丙戌
阿蒔氏より出来れり
十九日　丁亥
三位減棒
廿日　庚寅　〆
廿一日　辛卯
廿二日　壬辰
廿三日　癸巳
廿四日　甲午

廿七日　乙未
鷹野氏出来れり
廿八日　丙　〆
廿九日　丁酉
三十日　戊
廿一日　己

明治十五年一月一日　旧十四年十一月　日　庚子　水曜
朝六時迄に起き先つ神祇を敬拝し奉り物所に到り父母夫を問ひ所々に到る
二日
三日

四日

小沢より賀状来れり

廿日

鷹野より状来る

×

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

×

十九

廿

廿一

廿二

廿三

廿四

廿五

廿三日
廿四日
廿五日 三位殿ハ江戸ヘ参府ニ付 藤川孝詞の状下る
廿六日
廿七日
廿八日
二月一日
二日 ×
三日
四日
五日

集冊雲州来状
七日
八日
九日 ×
十日 ×
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日 生駒鷹野の状を見る ×
十七日

十五日 ⊗
十六日
十七日
神田サヽヽ林ヶ世事
廿二日
廿三日 ×
廿四日
[illegible]
廿五日
五節句ニ成ル 廿七日
廿八日 ※
三月 一日

二日 ×
三日
四日
五日 ×
六日
七日
八日
九日
十日
十一日
十二日
十三日

十四
十五
十六
十七
五位試驗
十八
十九
二十
廿一
廿二
廿三
廿四
廿五
廿六

×

×

廿七
廿八
廿九
卅
五位試驗
卅一日
三位試驗
四月一日
二日
三日
四日
五日
長村与世学我ノ来

六月
七日
八日
九日
十日
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日

十七日
十八日
神田木挽町へ来れ
十九日
二十日
廿一日
吉野屋の状を見る
廿二日
廿三日
廿四日
廿五日
廿六日

廿七日
廿八日
廿九日
卅日
五月一日
二日
三日
四日
五日
六日
七日
八日
九日
十日
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
高宮出を見る
十六日
十七日
十八日
鞍ヶ下宿へ宛書状来る

×

×

十五日

廿日

東京府へ公債利金受取るわく

廿五日

廿六日

廿七日

×

廿八日

廿九日

六月一日

二日

字空地を見る

八日

九日

×

十五日

×

十二日

×

中等科免状下る

廿九日

廿日

七月一日

十月

十二日

父君より書状来る 仙基兄へ其
旨端書五通中

十二日

五千歳より状来る

十二日

五千歳より状来る

十七日

仙基より返事来る

十八日

[illegible]より状来る

十九日

五千歳より書状来る

廿一日 正森より状来る

卅一日

公事宿へ引移り

八月一日

二日

三日 今日曜書を認む

四日 昨日??

五日

六日

七日

八日

九日

十日

十一日

八月

主ノ一 二ノ一 史ノ一 ： 通二 ヲ四 ヲ廿八 ヲ三十 ヲ四四

十二日
十三日　蟲干をなす
十四日　蟲干昨日ノ如し
十五日　蟲干昨日ノ如し
十六日　蟲干昨日ノ如し
十七日　蟲干昨日ノ如し
十八日　蟲干昨日ノ如し
十九日
廿日　蟲干
廿一日　蟲干昨日ノ如し
廿二日
廿三日　蟲干
廿四日
廿五日
五十嵐及松本より状来る
廿六日
廿七日　蟲干を済ス今日三千幣済
廿八日
九月一日
糸元義と改名写届る
二日

六月

東京大学より状来る

七月

官費生申付らる

十月

学我小使より状来る

十一月

東京府より状来る

十二月

六等訓導を任せらる

佐世永我ら世を見る

世子

再大学の我へ十一月世々考入会
延期願を出せり

世々

十月一日
学大学より寄宿舎へ入
舎せり

廿五日

五十嵐与惣兵衛

廿六日

廿七日

廿八日

十月一日

八月

平歳より状来る

十四

加賀より状来る

十五日

加賀より状来る

十六日

東寺府より状来る所長より
状作り

廿七日

廿七日

依預免本宮

廿九日

十一月一日

十二日

子歳より状来る

廿九日

五ツ半時より出来る

廿日

明治十六年一月一日 四十五年十二月日 月曜日

夜より終夜いなり神社に参詣 四時頃父
母と高生太神熊野社へまゐる又
白銀町菊井へ寄り帰宅朝飯
を食へ読書初書教等畢りて
午後柳町五ツ半より加藤鉄
理小杉大沢佐々木小中村本庄

十六年一月

本村六左衛門殿を賀し　根岸金杉
村なる俗訪庵の法師より所り叙如
君ありて暮方うつぬ

二日

昨夕気色よろしく　陸部に乗り西ヨリ吹たし
雨も降こなかり
きぬ　後東海道を行て保土田沢　丸山田五郎
小川坂越形　品川の口形氏来れり

三日

四日

晴　陸部に乗り西ヨリ吹たし
川加宣清後　西ヨリ　晴
及大長寺に到
冨沢氏来り今

六日

晴　陸部に乗り西ヨリ吹たし
霜降　品川
百姓行ア及大長寺に到り
伊年　鈴木異四郎来れり
北野氏来れり　北野我善所
大ラウ上野之住ヲ古島ヲ長
尺蓋に到り

七日

八日

×

平潟　三崎屋
急ク帰ル
桜ヲ越天金
雑仕ヲ来ル

十日

関沢ヲ賀状来る

十一日

阿部氏より状来る

十二日

十三日

十四日

×

廿三日

五十嵐より状来る

二月一日

阿部氏より状来る 第一期

試験体業ニ付帰宅ス

十五

清井より狂歌来る

三月十五日

名古屋君より狂歌来る堤行き

なども来る

三月

七る
五十鬼ゝ牧東る

廿七日

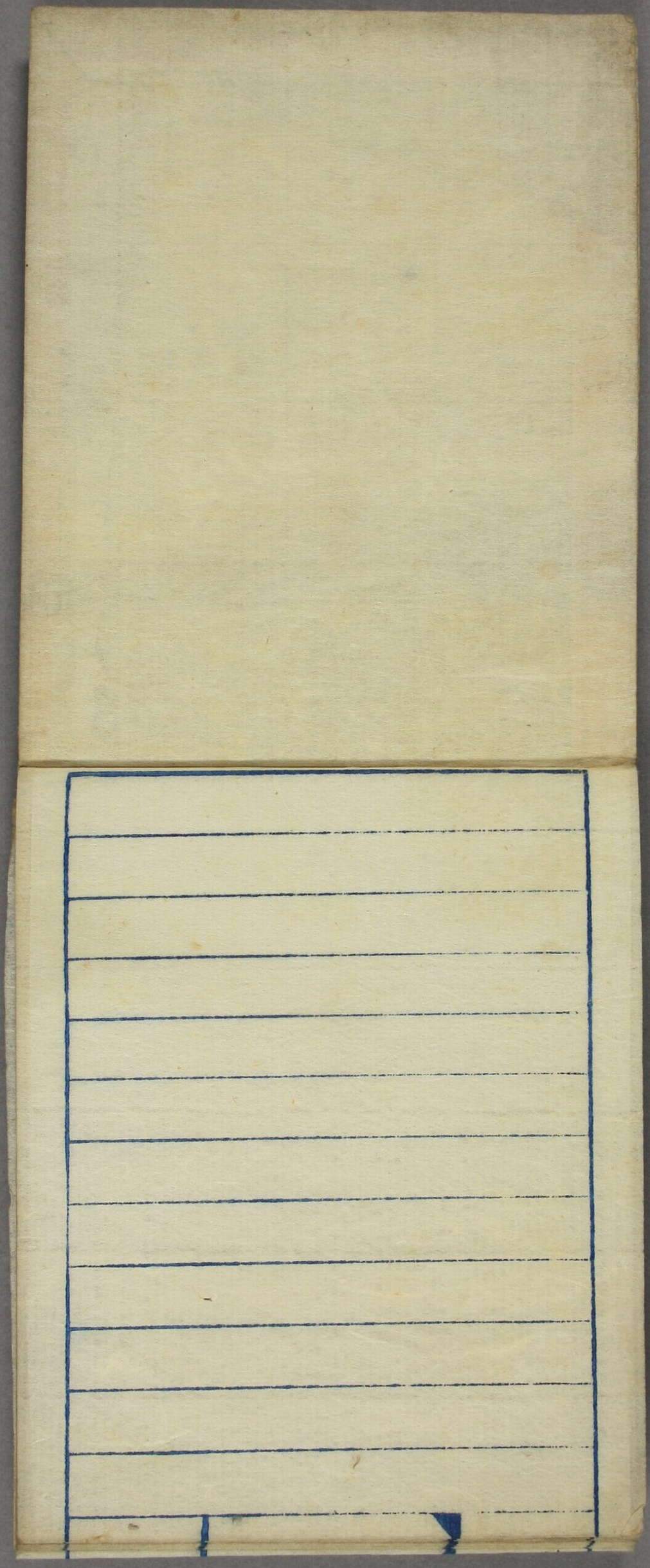
山中伯父君福島へ出立ス

四月一日

十日

伊吹方ヨリ来ル又福島叔父ヨリ

十五

廿五ヶ
廿六ヶ
廿七ヶ
廿八ヶ
兄天仙童ようろうまふ

廿七ヶ
父君より右の点をせぬ状来れり
廿八ヶ
廿九ヶ
三十ヶ
×